

稲沢市学校施設整備基本計画 千代田地区説明会

日時 令和7年2月15日（土）

午前10時～11時45分

場所 千代田中学校屋内運動場

1 教育部長あいさつ

2 稲沢市学校施設整備基本計画について（事務局から説明）

3 質疑応答

Q 祖父江 男性

「稲沢市の義務教育と学校のあるべき姿」の策定が10年前にも関わらず、その後、教育委員会で内容見直しの検討がなされずに計画の策定委員会が始まったのはおかしいのではないか。

次に、義務教育とあるべき姿で「人口減少に歯止めをかけ、人口増につなげるような思い切った施策の実施」と書いてあるが、市として本当にそういうことをしてきたのか。例えば、瀬戸市の小中一貫校「にじの丘学園」は、高速道路が整備され道路状況がよくなったため、人口が大きく増えた。祖父江地区は、片原一色まで道路が来ているのに、日光川と名鉄を越さないと、1本の通過する道路ができない。なぜ、そこを早くやらないのか。やってから人口が増えないのなら仕方がないが、どういう取り組みをしてきたのか、その点を回答してほしい。

それから、過去の経験で、ある児童が児童数900人くらいの規模の学校に通っていた。その子のお母さんが「うちの子は、児童が多い学校では大変です。」と言われた。そこで、市内の学校で自分の子供に合う学校を探してくださいと話したら、単学級のところを見つけていただいた。その代わり保護者送迎ですと。このように、全部一律にすることがいいのかどうか。標準規模という名の下にすべて一律にせず、多少の幅を持たせて1学級でもいいような所を作ってはどうか。

次に、通学距離について、保護者アンケートでは通学の許容時間が30分以内の回答が90パーセントなのに、計画の通学距離は2.5キロで30分以内になっていない。30分以内というが、小学校1・2年生が30分でどのくらいの距離が歩けるのか、学校教育課に答えてほしい。95パーセントの方が、通学安全の心配をしている。だったら、弥富は1.5キロにするようなので、保護者が安心・安全と思えるような距離、1.5キロにする考えはないのか。今まで通っているからとか、そんな考えは絶対に駄目だと思うので、答えられる範囲で回答してほしい。

Q 千代田 男性

今の質問は具体的な提案がなく、反対のための反対だと思う。

大きな学校で困ったから小さな学校に行ったという話があった。そういうこともあると思うが、小さければいいというわけではないので、子供たちの意見を聞いて、それを踏まえた施策をしていただくなり、そんな対応をしてほしい。

それから、将来的にどうするかは、地域で考えたほうがいいと思うので、各学校に運営協議会もあるし、PTAもあるし、そこで意見を聞いていただいて、時間は待ってられないので、10年、20年先を見越して、今いる人たちが全力を挙げて考えていけばいいと思う。

今日提案された計画の中にあった「にじの丘学園」のような小中一貫校。そこまで考えて提案されているのかどうか、そこをお聞きしたい。

A 事務局

最初のご質問、義務教育と学校のあるべき姿、平成26年5月に教育委員会が発表した稲沢市の学校規模に関する考え方をまとめたものですが、これについて当時の考え方が今でも当てはまるのかどうかを検証したのかという趣旨のご質問だったと思います。平成26年5月に公表された後、文科省が改めて学校の標準規模に関する考え方をまとめた報告書を公表しました。これは、教育委員会が義務教育と学校のあるべき姿を公表した後でしたので、文科省の考え方と義務教育と学校のあるべき姿との整合性がとれているかどうかを教育委員会の中で改めて検証を行いました。その結果、文科省の考え方と合致しているとの結論に至り、今日に至っています。

次に、人口増に向けて稲沢市としてどういう取り組みをしてきたのかというご質問につきまして、稲沢市としても人口減少対策は非常に重要な課題だと考えています。日本全国で少子化が進み人口が減少している中で、少しでも人口増、それが難しくとも人口減少を和らげることができないかと、充実した子育て支援策の導入や、都市開発の面では、市街化調整区域にも一定の条件の下、住宅が建てられるような取り組みを行っています。しかし、人口減少の要因は様々で、稲沢市だけの取り組みで食い止めるのは難しいのが現状です。人口減少対策は稲沢市にとっても大切な課題ですので、学校再編とは別に、市全体で取り組んでいかなければいけないものだと考えています。

次に、すべての学校が小規模でなくても良いのではないかとということですが、小規模特認校制度というものがありまして、小規模の学校を残しておいて、小規模の学校が良いと考える児童や保護者に、保護者送迎にはなりますが、別の校区から通っていただく。県内では、豊田市が取り組まれています。稲沢市の場合は、本計画の保護者アンケートでも9割以上の方が2学級から4学級までが適切であると回答されておりますので、現行の計画内容が適正だと考えておりますが、いただいたご意見も参考にさせていただきながら進めてまいります。

A 事務局

30分で小学校低学年の子供がどれくらい歩けるかということですが、季節や一人一人当然違います、おおよそで考えれば、約1.5キロくらいかなと思います。

A 事務局

小中一貫校も見据えた計画なのかということですが、市内一律でということは考えておりません。地区によっては小中一貫校でのご要望をいただいても、小学校と中学校の建築年数が大きく離れていたりしますと、まだ新しい学校を潰してまで小中一貫校にするのかという問題も出てきます。この千代田地区のように、小学校も中学校も同じように古いという状況であれば、地域の方と相談させていただきながら、にじの丘学園のような小中一貫校での整備がいいというご意見が多ければ、小中一貫校として整備を進めていきたいと考えています。

Q 大塚 男性

資料3ページにすべてを建て替えた場合は1千億円が必要だと書かれている。では、今日提案されている統合・再編の計画では、いくらかかるのか。それも合わせて提案しないと、公平な検討にならないのではないか。

A 事務局

資料3ページの1千億円というのは1校あたり30億円かかると仮定し、32校すべて建て替えた場合の整備費用の目安としてお示ししているもので、実際に必要となる費用は、近年の物価高騰の影響や整備する規模によって変動します。学校再編・統合によって新しく学校を建てる場合の費用も、統合する学校の規模、統合する時期、また統合する場所等によって費用が異なってきますので、ここで根拠のある数字をお示しすることはできません。

Q 大塚 男性

ということは、すべてを建て替えた場合、1千億円のお金がかかります、大変でしょうと脅しているだけではないか。統合・再編でも1千億円かかるかもしれない。安くなるかも知れないし、最悪の場合はもっと高くなるかも知れない。これを判断の根拠にしてはいけないのではないか。もっと、どんな学校を造っていくのか、そういうところで話し合わないといけないと思う。モルタルの落下や赤水の発生についても、管理はどうなっていたのか。教育委員会の責任なのに、それをこのような形で説明されるのは非常に残念だと思う。

Q 田代 男性

児童数推計について、資料21ページの標準規模に向けた対応策についての別表2では坂田小学校の令和11年度の児童数が全学年で99人と書いてある。一方で、別綴じ資料の坂田小学校の令和11年度の推計人数は105人になっている。数字が違うのはなぜか。

また、私は田代に住んでいるが、最近世代交代で家がどんどん建っていて、坂田小学校に行く児童も増えている。推計資料の坂田小学校の欄を見ればわかるように、平成の一時期は最低89人という時期があったが、今は122人と増えている。しかし令和元年度から減少しており、令和11年度推計は105人、あるいは別に資料だと99人と減少している。しかし、私の個人的な感覚では、今、田代地区は建築ラッシュでどんどん家が建っており、これからもっと増えていくと思う。ここでもし坂田小学校が無くなれば、坂田地区の住民は本当に困る。今、2.2から 2.3キロの範囲で商店があるかといったら何もない。そこで小学校がなくなると、地域が崩壊する。どういう観点で計画を提案しているのかわからないが、地域の観点で言えば、本当に田代の地域は困ってしまう。ぜひ再考を願いたい。

もう一つは、今民生委員をやっているが、民生委員は正式には民生児童委員という。しかし、民生児童委員の会議に教育委員会からは誰も来ておらず、福祉課関係の職員だけで、児童に関わることはあまり議題に上がらない。だから、民生児童委員はこの計画について細かいことは聞いていない。坂田小学校がどうも無くなるらしいという噂は聞いていても、市のほうから何も連絡がなく誰も知らない。地域協議会のメンバーもPTAや教員や地域住民と書いてあるが、やはり民生委員という言葉はない。民生児童委員が地域協議会に入ることはあるのかお聞きしたい。

A 事務局

児童数の推計が2つの資料で異なる点については、資料21Pの数値は令和5年度に計画案を策定した際に作成したもので、もう1つの別綴じ資料の推計は令和6年5月1日時点の最新データです。推計方法は同じですが、推計の時点が1年違うため、その間に転入、転出等があったことにより異なっています。

坂田小学校区でこれから人口が増えるのではとのご意見ですが、確かに坂田小学校区では転入される方が結構みえて、再編・統合の対象となっている他地区と比較して児童数の減少は緩やかであると認識しています。ただ、平成31年度に千代田小学校と坂田小学校を合わせると510人だった児童数が、令和6年度は458人に減少し、令和12年度には377人と緩やかに減っていく推計です。学校施設は一度建てると、少なくとも80年は使う想定です。建築するまでも何年もかかるため、100年先を見据えて考えていかなければいけない大きな事業です。少子化が続く中で、一度学校を建てますと、ずっとその学校を維持していかなければなりません。児童が数人しかいない、複式学級になるような状況であっても維持していかなければいけない、ということも考えていかなければなりません。そのため、校舎棟を建て替えるタイミングで、せっかく新しく建てるのであれば、一定規模を保てるより良い教育環境を整備していきたいと考えております。

地域協議会に民生児童委員が入ることがあるのかということですが、地域協議会のメンバーは地域の皆様に話し合いながら選出していただくものだと考えていますので、地区によっては選出されることもあり得ると考えています。

Q 坂田 女性

自宅から千代田小学校まで徒歩で2.2キロあり、小学校低学年の子が徒歩で通うのは大変なので、ぜひスクールバスを希望したい。

今、0歳の子供がいるが、学校再編・統合まで早くても7年かかるということなので、小学校低学年のうちは坂田小だとしたら、1クラス10数人になってしまうのか。

A 事務局

徒歩通学距離で2.2キロは低学年だと遠いので、スクールバスを利用できるようにしてほしいということですが、現状市内で低学年児童も含めて2.5キロを歩いている児童がいる中で、2.5キロより短い距離で一律にスクールバスを出すということは、申し上げられません。ただ、通学に関する細かい部分は、地域ごとに状況が異なりますので、同じ2.2キロであっても、安全に徒歩通学ができる道路環境にあるのかどうかによっても変わってくると思いますし、そこは地域協議会で話し合っていければと考えています。

次に、児童数推計は令和12年度まで出させていただいておりますが、この推計は現在住民登録がされている児童の数を積み上げたもので、今後転入転出により多少の増減はありますが、今のところ令和12年度の坂田小学校の各学年の児童数は1年生の12人から6年生の13人まで、多くの学年で1クラス10数人となる見込みです。

Q 西溝口 女性

千代田地区は他地区と比べて各種整備が後回しになっていることが多いと感じている。そうした中で、学校再編・統合のスケジュールが第1期の後期になっている。私は再編に賛成だが、もし第1期の後期でまとまらないと、工期がどんどん後ろになって、千代田が最後になるということはないのか。私が千代田中学校に通っていたころは福祉実践校になったり、モデル校のケースとしていろいろと進められたことがあった。ぜひ今回も学校再編・統合のモデル校として早く進めていただきたいと思う。再編・統合のスケジュール目標が出されているが、これが延びないかどうか。もしここでだめになったとしたら、また後にならないかどうか、確認したい。

Q 南麻績 男性

私も60年近く経った建物を後回しにされるのは嫌だ。小学校と中学校が同じような年数なので、千代田中学校の敷地に千代田小学校は建てられないのか。借地の件もあるので、なるべく施設をまとめたほうが、費用面でも好ましい。施設を建てれば建てただけ、その負担は我々の世代にのしかかってくる。そういう点でも、できるだけ早く再編・統合していただいて、モデル校としていち早くやっていただきたいと思っている。

A 事務局

1つ目の、第1期の後期に着手する計画目標が遅れていくことがあるのかという

点につきまして、計画目標は、校舎棟の老朽化の状況や少子化の進行状況などを踏まえて優先順位を付け、第1期間、第2期間、第3期間と分けて計画させていたでいています。したがって、地域との協議に時間がかかった場合は予定どおりに進まないということがあるかと思いますが、第1期の後期に着手できなかったからと言って、第2期の後期や第3期まで延ばせるかというと、そこまで校舎棟が持ちません。そのため、このような説明会などを通じて計画に理解と納得を得られるように努め、第1期の後期に着手できるように努めてまいりたいと考えています。

2つ目、千代田中学校の敷地と隣接する千代田小学校の敷地も含めて、そこに坂田小学校も含めた1中学校、2小学校を一つにまとめられないかということですが、面積的には千代田中学校と千代田小学校の敷地を合わせれば、十分可能だと思いますが、それについては、地域で協議していきたいと考えています。

Q 坂田 男性

先ほどスクールバスの件で、坂田町の一部はスクールバスの対象となる距離に満たないと言われた。なぜ、坂田町の一部と分けるのか。

A 事務局

坂田町は「坂田北」と「坂田南」がありますが、実距離で坂田北が2.5キロ程度、坂田南が2.8キロ程度とみています。そうしますと、坂田地区については、一部のエリアを除いてスクールバスの目安となる2.5キロより遠くなりますので、坂田町の一部と申し上げました。ただ、2.5キロはあくまで基準であって、同じ行政区内で片方は2.4キロ、もう一方は2.6キロだったときに、2.4キロの人は歩いてきてください、2.6キロの方はバスに乗ってくださいということがないようにすると計画にも明記しています。実際にどうなるのかは保護者の皆さんと協議しながら地区ごとに決めていきますので、この場では申し上げられませんが、基本的には同じ坂田町内で片方はバス通学、片方は徒歩通学ということにならないように協議を進めてまいりたいと考えています。

Q 坂田 男性

坂田小はかつて分校で1年生、2年生が坂田分校に通い、3年生から本校に通っていた。先生は一人で、生徒も1、2年生合わせても10人程度だったが、別に問題はなかった。私は実際に自宅から千代田小学校まで57年前の通学路を歩いてみた。実距離で2.8キロあり、45分かかった。近年は9月になっても高温で、57年前と環境が異なる中で、熱中症対策をどうするのか。通学路には誰もいない。そんなところを歩かせるのか。ましてや、防災の関係もある。経費がどうのこうののではない。もし、何かあったら責任が取れるのか。安全・安心を絶対に最優先してほしい。

Q 田代 女性

この再編は、中学校区単位で再編し、2.5キロまでは歩いていくということだが、中学校区でないといけないのか。氷室の子たちが千代田小の場所まで行くとなると、バスが必要。例えば、三宅小と坂田小の統合は中学校区が違うからだめと聞いたことがあるが、別に小学校の子がみんな同じ中学校に行かなければいけないというルールはないと思う。小学校区の再編だけで、中学校は変わらなくてもいいというのがあると思うので、それは考えてもいいのではないか。

A 事務局

中学校区単位で見るのではなく、隣接する小学校区単位で近い所があれば、そことの再編もあってよいのではないかとのご質問ですが、現状そういう考えはありません。小学校から中学校に上がる時に、なるべく同じ中学校に通えるということ を重視したいということもありますし、稲沢市では行政の施策、まちづくりなどもそうですが、中学校区単位で行っていることもありますので、中学校区を超えた範囲での再編というのは現状では難しいと考えています。

Q 田代 女性

愛西市に生まれて、明治時代の中ごろの濃尾地震で壊れて建て直した家で私が育った。子供のころは昭和19年に東南海地震があつて、昭和20年には三河地震、昭和21年にも南海地震があつて、怖い思いをした。戦時中は空襲警報が出ると防空壕に入ったり、大地震が何回もあつて、びくびくしながら育った。愛西市から稲沢市に引っ越してきて間もなく、目比川が決壊して床下浸水し、行政の方にボートにらせていただいて、坂田小学校に夫婦と子供3人で避難した。避難場所があつたので良かった。ぜひ、学校を残していただきたい。

A 事務局

避難所については、地域にとって非常に大切な施設、必要なものですので、担当部局とも協議しながら、廃校となった場合、学校施設のうち屋内運動場など活用できる施設については、避難所として活用するなど地域の皆さんに安心していただける方法を協議会等で一緒に検討していきたいと考えています。

Q 大塚 男性

19ページに「説明会では丁寧に説明し、地域の理解と納得を得るように努める。そして、一定のご理解を得られた地域には地域協議会を立ち上げます」とある。今日の説明会で一定の理解と納得がいただけたのか。教育部長の見解を伺いたい。

A 事務局

今日、説明会を千代田地区全体で行いました。今後、地域から要望があれば、説明会を開催させていただき、その中で、納得が得られたと判断すれば、地域協議会を立ち上げたいと考えています。

Q 大塚 男性

さらに対話を進めていくということで理解した。この「一定の」というところが私は非常に不思議に思っている。誰がどのように判断するのか。18 ページに、「再編・統合は、保護者や児童・生徒、地域住民の理解と納得を得ながら進めていきます」と書いてあるが、住民投票をやらなければ「一定の」という判断はできないのではないか。

A 事務局

一定の理解につきましては、今日もそうですが、賛否両論あります。その中で施設の老朽化や少子化、通学距離など課題があるが、まずは課題について地域で話し合ってみようという機運がある程度醸成された地区については、再編・統合について一定の理解が得られたと判断し、まずは教育委員会から、仮称地域協議会の立ち上げに向けたお声がけをしていきたいと考えています。それから、第1期対象地区は、千代田地区のほかに、祖父江、平和地区もございます。2月22日に祖父江地区、3月8日には平和地区で説明会を開催させていただきます。1回では理解と納得を得ることは難しいと考えています。そういった中で、一度地域で課題について話し合ってみようじゃないかという機運が醸成された地区を優先に教育委員会として注力させていただいて、進めさせていただきたいと考えています。

Q 大塚 男性

今の答弁は非常に不思議に思う。「稲沢市議会だより2月号」で同じような質問に教育委員会が答えている。「施設が新しくなるのであれば、再編・統合された場合の課題について検討してみてもいいといった意見が一定程度出てきた段階で、地域協議会をやる」と。これはおかしくないか。施設が新しくなればというが、古くなったら新しくするのは当たり前で、誰も反対する人はいない。そのことと、再編の協議を進めていくのは全く別問題だと思う。こんな答弁は、まったくごまかしだと思うし、地域の住民の意思は、子供も含めてしっかり確認しないと、あいまいなまま進めていくのはおかしいと思う。施設が新しくなるのであればというのは、反対している人がいる間は、学校が古いままで新しくできないということ。これはトランプのやり方と同じじゃないか。

4 閉会あいさつ